

老健にいがた

第36号

2014. 9 Vol. 36



立位式介護用リフト「スカイリフト」

目次

巻頭言	1	協会だより	12~16
特集：腰痛対策	2~6	老健とわたし	17~18
平成25年度介護米百俵賞受賞演題	7~10	みんなの広場	19
施設紹介	11~12		

卷頭言

フレイルティ

新潟県介護老人保健施設協会
広報担当理事

長谷川 まこと



高齢者医療・保健の分野でフレイルティ (Frailty) という言葉が注目されている。高齢者は加齢に伴って徐々に心身機能が落ち、日常生活上の自立度や活動力は低下し、要介護状態に陥っていく。脳血管障害や骨折などの急性疾患を伴う過程とは違い、緩徐に生じてくる老年症候群である。単一の疾患や単一臓器の機能低下によるものより、多臓器の予備力が潜在性に低下していくことが主要因となる。健康障害に陥りやすい高齢者がフレイル（虚弱）とされ、フレイルティとは「加齢に伴う種々の機能低下（予備力の低下）を基盤とし、種々の健康障害に対する脆弱性が増加している状態」を指すとされる。

フレイルティには身体的要素、精神心理要因、社会的要因など多次元的な側面がある。おもに身体的側面からフレイルティ評価をしようという試みが外国にある。フリードという研究者は1) 体重減少、2) 主観的活動力低下、3) 握力の低下、4) 歩行速度の低下、5) 活動度の低下の5項目をチェックし、3項目以上を満たせばフレイルティとし、実際に地域住民を調査したところ65歳以上で7%、80歳以上では30%がフレイルティと診断されたという。

最近、サルコペニアという言葉も時々見かける。サルコペニアは「加齢に伴う筋力の低下、または老化に伴う筋量の減少」とされ、フレイルティの重要な要素として捉えられる。この両者が関連しあって、フレイルティよりさらに重い機能障害に陥っていく。介護度が軽度であった者が重症化していく場合にはその要因として、持病の悪化、突発的な合併症発症などいくつもの要因が関与しており、要介護となると低栄養、痛みによる活動低下、うつ、体調不良等悪循環が生じサルコペニアが増強、フレイルティから深刻な非可逆な病態へ向かう。しかし、適切な介入によっては、筋力も蘇り加齢変化が予防可能であることが少しずつ明らかになってきている。要するに高齢期の健康づくり、介護予防の可能性があり、老化と廃用の悪循環を断つことへのチャレンジが必要とされる。

フリードの研究もサルコペニアとの関連での論考も主に身体的側面からの接近だが、一方で、認知機能低下など精神・心理的側面からの検討が必要だと主張がなされており、日本老年精神医学会ではこのフレイルティの概念を普及させるべきだとホームページで呼び掛けている。フレイルティはこれまで「虚弱」との訳語があてられていたとされるがこの訳語はネガティブすぎるとの主張で、フレイルティという言葉には、さらに多面的で、可逆的側面を含めるべきだという。

老健における私たちの職務は高齢者を身体的、心理的、社会的に支えることであり、加齢による衰えを見守り、抑え、時に蘇らせ、さらには若年者には届かぬ深みに至る成熟と言った側面に触れることが出来る仕事である。確かに加齢は衰弱に向かう下りの狭い一本道ではない。私流に言えば、日本人の寿命がこの数十年伸びてきたのは、壮健期と老齢・ターミナル期の間の、たそかれ黃昏期がゴム紐のように伸長してきたもので、この期はフレイル期といつてもよいのではないか、そして高齢者の様々な課題がこの時期に存するとあらためて思う。フレイルティという言葉には見過ごされがちだった豊かな高齢期の発展の可能性が秘められており、老健に携わる私たちは、関わり様や姿勢によってはその目撃者となりうるのではないかと考えている。

(参考 山田ら、フレイルティ&サルコペニアと介護予防 京府医大誌 2012;121)

立位式介護用リフト「スカイリフト」の開発から導入まで

立つこと、トイレにいくことを「あきらめない」ために

アイ・ソネックス株式会社

代表取締役 舟木 美砂子

(作業療法士・義肢装具士・介護支援専門員)



1. はじめに

立位が困難な要介護者が洋式便器に移乗するとき、車いすから便器への移乗、衣服の着脱などを1名の介護者で行うのは困難なことが多く、安全・安心な介護のためには、2名の介護者が必要と言われています。しかしながら、介護現場は、介護力不足による腰痛発生が後を絶たない状況であり、排泄や移乗を支援する省力化機器の開発が、今後の少子高齢時代を支える重要なカギとなります。さらに、尿意があっても遠慮しておむつで排泄している高齢者のためにも、トイレに座って排泄したいという当たり前のニーズを尊重することができれば、QOL向上に及ぼす影響も大きいと言えます。

そこで、このような課題を解決するためには、排泄動作における移動や移乗の省力化や下着の着脱時の立位保持によって排泄の自立支援を実現する、新たな発想をもった排泄支援機器の開発が望まれていたといえます。

2. スカイリフト開発と商品化後の経緯

スカイリフトはアイ・ソネックス株式会社の前身（株）舟木義肢が、1991年から93年にかけて（公財）テクノエイド協会の在宅介護機器開発研究事業の助成を受けて、移乗介助や排泄介護の省力化や立位機能の維持促進を可能にする支援機器として開発された、日本初のスタンダップ式の移乗介護リフトです。

研究開発にあたっては、臨床分野で活躍している医療、工学、福祉分野の専門家によるプロジェクトチームを編成し、企画、設計、製作や臨床評価及び評価試験などの各段階で指導協力を仰ぎました。約3年間の研究開発期間を経て、次の2年間でプロトタイプの試作・モニタリングを行い、1995年に特許を取得し、商品化が実現しました。

しかしながら、1995年から2008年までの約13年間は、販売店や貸与事業所との代理店契約も殆どなく、要望があれば当社の営業が直接施設や在宅に出向いて適応判断や使用方法をご説明しなければならない、メーカーにとって非効率極まりない厳しい時代でした。一部の先進的な施設や要介護者の思いを叶えたいというご家族を除き、「リフトは面倒くさい」「機械で人を介護するなんて非人間的」などの先入観でリフトが受け入れられない時代だったと言えます。

しかし、2009年に入って保田淳子さんの提唱する「ノーリフトポリシーに基づく持ち上げない看護抱えない介護」への取り組みがはじまり、厚生労働省による介護労働者設備等整備モデル事業が施行されたことを契機に、全国の大手代理店も増え、流通が本格的に整備されてきました。さらに、本年度からは腰痛対策指針が改訂されたことと相まって、全国のどの地域でも介護保険制度の貸与や販売ができる商品に育ちつつあります。

写真:スカイリフト



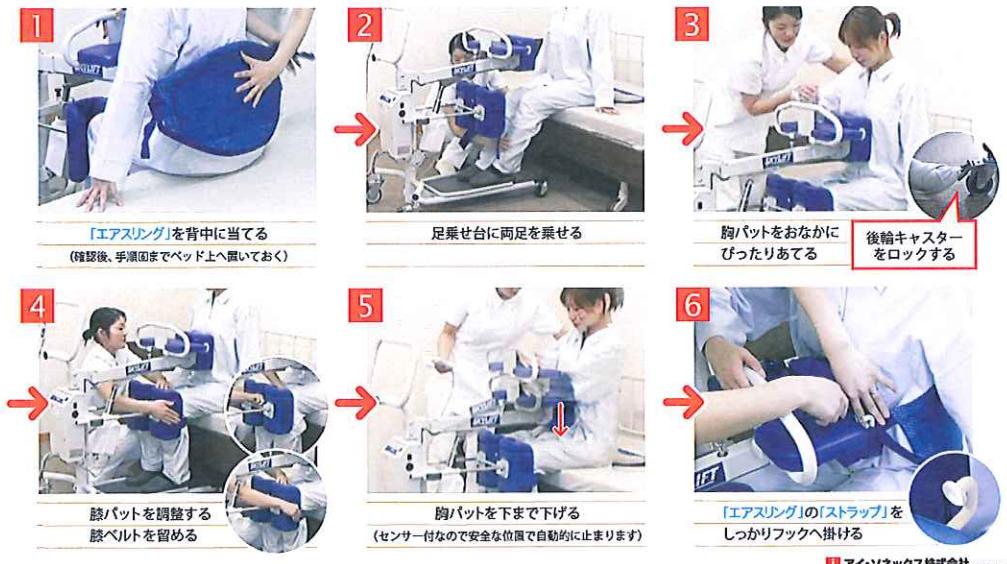
3. スカイリフトのもつ機能の特長

スカイリフトはエアスリングとサポートスリング、トイレットスリングの3タイプのスリング（吊り具）を使い分けることで、要介護者の障害程度や使用目的に合わせ、座位姿勢から立位姿勢に至るまでの任意の姿勢で使用できる機能を持っています。また従来のリフトはスリング装着が面倒で、しかもリフトに乗ったままでは衣服の着脱が困難でしたが、スカイリフトの場合、エアスリングを使用すれば簡単に短い時間でスリングを装着することができ、リフトに乗った姿勢のままでおむつの交換や衣類の着脱ができます。

写真: 3 タイプのスリング(吊り具)



写真: エアスリングの装着方法



© アイ・ソネクス株式会社 2020年

従来のリフトは狭い室内で使用しにくく移動にもかなりの力を必要としていましたが、スカイリフトはコンパクトで小回りが利くため、トイレ内や狭い空間でも使用することができます。

また、介護者の無理な移乗介助による身体的疲労や腰痛を予防し、看護、介護職の健康を守ることができるばかりでなく、早めに導入することにより、ご利用者様の筋力低下や関節拘縮などの廃用性症候群、転倒リスクを防止することができます。早期の段階から「起きて→立つ」リハビリを実施することは、体幹筋の活動性低下や関節の拘縮予防などに効果を発揮するといわれています。

さらに機器によって立位保持ができるため、従来の2人の人手を要する立位でのおむつ交換や衣服の着脱を、1人の介護者で行うことが可能なので、入浴時のシャワーチェアや、ポータブルトイレの移乗介助にも幅広く利用できます。次にサポートスリングは、下肢関節の拘縮や体幹バランスが不良なため立位をとることに不安がある方に適応します。ベッドから車いすへの移乗介助が主な用途になりますが、リフトアップすれば立位姿勢をとることができます。（写真）

写真: コンパクトで小回りが利く機器



小さくても重いすや便器へさごみ、
小回り性能がいいので、
狭い場所でも取り回しが簡単です。

写真：リフトアップの様子（立位姿勢）



最後にスカイリフトの意外なメリットですが、車いす等に深く着座できるので、座位姿勢を修正することによる介護負担を大幅に軽減できることです。

4. 導入後の変化

販売後のモニタリング調査から、お寄せいただいた声をご紹介します。

『主人（60歳代・男性）はALS（筋萎縮性側索硬化症）という難病のため、体調によって立てない日があり、車いすやポータブルトイレへ移乗するとき私も一緒に倒れそうになることが増えていました。使い始めて6ヶ月経った今では、車いすやポータブルトイレ、シャワーいすの移乗に大活躍です。これからも在宅で頑張れそうです。』

～～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*

『介護職員の人手による移乗時に転倒や打ち身などの事故が発生し、複数のご利用者様からも「痛い、怖い」といった声がありました。移乗時の安全対策としてスカイリフトを導入した結果、現在は利用者から不安や痛みの訴えはなくなりました。介護職員の身体的な負担軽減にも効果を發揮しています。』

このように、スカイリフトを体験することで、毎日のケアの質が高まり、リフトに対する考え方方が変わります。これからも当社は製品開発において、ご利用者様のニーズにいかに近づいていけるか挑戦を続けていきます。

写真：スカイリフトの便利な機能



【お問い合わせ先】 アイ・ソネックス株式会社 電話 086-200-1550
株式会社フロンティア新潟営業所 電話 025-290-8860

活用事例のご紹介

施設編

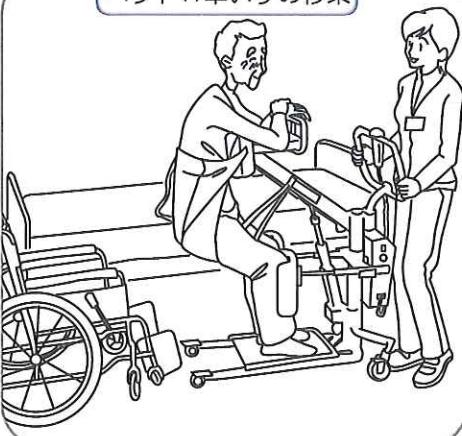
移乗時の事故防止

介護職員の人手による移乗時に転倒や打ち身などの事故が発生し、複数のご利用者様からも「痛い、怖い」といった声がありました。移乗時の安全対策としてスカイリフトを導入した結果、現在は利用者から不安や痛みの訴えはなくなりました。介護職員の身体的な負担軽減にも効果を発揮しています。

人手での移乗介助



ベッド ⇄ 車いすの移乗



車いす ⇄ ポータブルトイレの移乗



介護職員の声

「職員全員が利用者役と介助者役になって操作方法をマスターしました」

導入前

女性職員の腰痛防止と新人定着率の向上のため

介護職員は全員女性で、大柄な入所者が多いため、腰痛を訴える職員が多くなっていました。また、新人の定着率向上のためにも省力化機器が必要でした。

施設区分：有料老人ホーム／定員：20床／導入台数：1台／利用制度：介護労働者設備等導入奨励金

4ヶ月後

導入後4ヶ月が経ち、介護職員もスカイリフトの操作に慣れ、体が楽になったとの意見が多い。また、新人の介護職員であっても、移乗の技術レベルの差に影響されないので、事故防止にも役立っています。

《介護職員》

導入後

- ・ベッド ⇄ 車いす
- ・事故防止のため新人職員の移乗介助時に使用

車いす ⇄ 洋式便器の移乗

介護職員の腰痛予防対策に積極的に取り組んでおり、なるべく簡単に使用できるリフトを探していました。

施設区分：特養／定員：100床／導入台数：2台／利用制度：介護労働者設備等導入奨励金

5ヶ月後

これまで、2名の介護職員で行っていた洋式便器への移乗介助を、1名または2名の介護職員で行えるようになり、危険度と介護者の精神的負担が軽減しました。

《介護職員》

- ・車いす ⇄ 洋式便器
(2か所の集合トイレで7名に使用)

排泄介助の負担軽減

女性の介護職員1名では移乗介助を行うことが困難な重介護者が増え、特に洋式便器への移乗介助の場面では、2名の介護職員でもやっとの状況でした。

施設区分：特養／定員：80床／導入台数：1台／利用制度：施設購入

7ヶ月後

現在も安全のため2名の介護職員でスカイリフトを使用していますが、身体の負担が非常に軽くなり、1日5回の排泄介助に使用中です。半年以上経って慣れてきたため、スタッフ数が少ないとときは、1名の介護職員でも使用できるようになっています。《介護職員》

- ・車いす ⇄ 洋式便器
- ・車いす ⇄ ポータブルトイレ
- ・ベッド ⇄ シャワーキャリー

介護職員の腰痛防止と車いす ⇄ 洋式便器の移乗

女性の介護職員が大半で平均年齢が高くなってきており、1対1で行う車いすから洋式便器への移乗介助が負担となっていました。

施設区分：老健／定員：80床／導入台数：2台／利用制度：介護労働者設備等モデル事業

一年後

介護職員のほぼ全員がスカイリフトの操作に慣れ、誰でも使える状況になってきています。身体への負担が軽くなったことが実感できたせいで、積極的に利用されています。《介護職員》

- ・車いす ⇄ 洋式便器
(2か所の集合トイレで計10名に使用)

施設導入後のモニタリング調査から、

「人手で抱えない移乗介助」の実践成果をお伝えします。

負担軽減と
排泄ケア

入所者の重度化により、女性職員の負担が増加し、特に洋式便器への移乗は2名の介護職員でもやっとの状況になっていました。今では、介護職員の身体的負担が軽くなつたため、排泄介助やシャワーキャリーへの移乗の際も1名の介護職員で使用できるようになりました。

職員2名で洋式便器へ



車いす ⇄ 洋式便器の移乗



車いす ⇄ シャワーキャリーの移乗



介護主任の声 「リフトを使い慣れてくると、移乗介助に対する職員の意識が変わります」

導入前

トイレへの排泄誘導

昼間はできる限りトイレで排泄するよう誘導しているが、手間のかかる入所者が増えたため、トイレで使用できるリフトを探していました。

施設区分：老健／定員：80床／導入台数：1台／利用制度：介護労働者設備等モデル事業

1年4ヶ月後

導入後

エアスリングで身体が滑る傾向があるときは、介護職員が手で多少サポートすることで、簡単に使えることが分かってきました。移乗介助には必ず使うという意識が全職員に浸透し、引っ張りだこの状態となっています。

《介護職員》

使用場面

- ・車いす ⇄ 洋式便器 (8名に使用)
- ・車いす ⇄ シャワーキャリー (8名に使用)
- ・起立訓練 (2名に使用)

腰痛予防と
移乗の負担軽減

ポータブルトイレや洋式便器への介助で腰を痛める介護職員が増え、移乗負担を軽減する必要がありました。また、公的機関として、腰痛予防対策の推進モデルとしての役割もありました。

施設区分：特養／定員：70床／導入台数：1台／利用制度：介護労働者設備等モデル事業

1年5ヶ月後

リフトを使いこなせるようになると、従来の人手で抱える介助には怖くて戻れないようになります。高齢者の場合、体幹筋力が低下し円背の方が多いため、エアスリングだけでなく、必要に応じていろいろなスリングを試す必要があると思います。

《採用を勧めた職員》

- ・車いす ⇄ 洋式便器 (3名に使用)
- ・ベッド ⇄ ポータブルトイレ (体重70kgの女性1名に使用)

トイレへの排泄誘導

2009年度リフト助成金制度を利用し、サービスの向上と職員の健康管理のために、リフトを導入しました。常に時代の最先端をいく質の高い介護の提供を目指しています。

施設区分：特養／定員：エッジ型40名＋従来型80名／導入台数：7台／利用制度：東京都リフト導入助成金制度

2年1ヶ月後

各階で「コンパクトで使いやすい」との評価が多いが、階により使用頻度や対象人数が異なっています。ユニット型居室では、入所者1名に1台の専用品になっています。多床居室では、排泄・移乗とフル稼働中です。簡単に使えるエアスリングは便利との声が多く聞かれます。

《介護職員》

- ・ベッド ⇄ ポータブルトイレ (1名に使用)
- ・ベッド ⇄ 集合トイレ (2名に使用)
- ・車いす ⇄ 集合トイレ (6名に使用)

ベッド ⇄ 車いすの移乗
体格の良い方の

入所者で75kgと85kgの方が入所されたため、移乗の際、介護職員が2人掛かりで介助しても負担が高く、移乗省力化のため導入しました。

施設区分：特養／定員：55床／導入台数：1台／利用制度：施設購入

4年3ヶ月後

職員が操作に慣れるまで大変でしたが、慣れてくると一人でも安心して使えるため、体重の重い入所者の移乗には、大変助かっています。

《介護職員》

- ・ベッド ⇄ 車いす (75kgと85kgの2名に使用)
- ・車いす ⇄ 集合トイレ (75kgと85kgの2名に使用)

【禁無断転載】

平成25年度介護米百俵賞受賞演題

平成25年度介護米百俵賞に選ばれました
介護老人保健施設なでしこの演題をご紹介します。

車椅子・ベッド周囲の安全に対する工夫

～介助場面における表皮剥離・打撲痕
発生ゼロを目指して！～



介護老人保健施設なでしこ

渡辺 賢哉 原 弥生

脇田 昌彦 藤巻 光子

渡辺 千津子 伊藤 千里

演題発表者
渡辺 賢哉 氏

I. はじめに

当施設では、移乗介助等の介助場面において、車椅子やベッド柵への接触で発生した表皮剥離や裂傷・打撲痕のヒヤリ発生のほとんどが介助者の不注意や皮膚組織の弱い利用者に起因する事象であり、自らの意識付けと工夫で未然に防ぐことができるにもかかわらず、恒常的な発生の減少には至っていない現状がある。

そこで市販されているスポンジ素材の保護材を転用し、既存の車椅子やベッド柵へ簡易に設置することで有用な効果が得られるかどうかを検証するとともに、職員に対しての注意喚起につなげていくことを目的にこの度の研究に取り組んだ結果をここに報告する。

II. 研究目的

スポンジ素材の保護材が運用できるか否かを見極め、加えて職員に対して利用者の安全面への意識付けも図る。

III. 研究方法

1. 発生原因・箇所の分析

移乗動作時に発生し、受傷箇所が下肢（外側）に集中している。
⇒車椅子パイプ・ベッド周囲への設置とする。

2. 保護材の材質・種類（表①）

材質：ポリエチレンフォーム

表①：使用保護材の種類と設置箇所

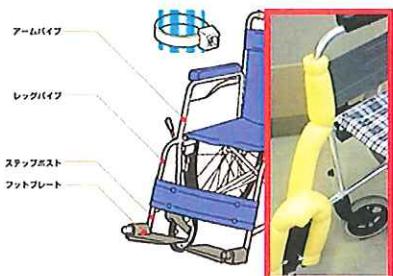
品名	メーカー	色	入数×cm	単価	設置箇所
クッションカバー	D社	黄	2×50	¥100	車椅子パイプ フットプレート ベッド柵
ライトチューブ	M社	白	1×220	¥118	"
養生カバー	"	青	1×200	¥380	ベッドフレーム
Lピタ	"	橙	1×180	¥298	フットプレート ベッド柵

3. 保護材の設置方法（写真①, ②, ③）

各箇所に保護材をはめて固定

- ・車椅子⇒結束バンドで固定
- ・ベッド⇒マジックバンドで固定

写真①



写真②



写真③



4. 対象者

- (1) 移乗動作及び体位変換全介助者
- (2) 皮膚が剥離し易い利用者

5. 実施期間

平成 24 年 7 月上旬～9 月下旬（約 3 ヶ月間）

6. 効果検証

- (1) ヒヤリ発生件数の把握と内容精査
- (2) 全職員へのアンケート調査

IV. 結果

実施期間中の対象者においては、表皮剥離や打撲痕等の発生は報告されなかった。

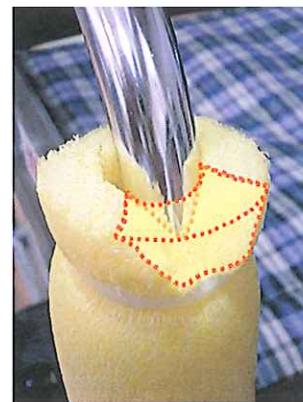
しかし、奇しくも保護材を設置していない他の利用者で移乗時にできたであろうと思われる打撲痕を発見する結果となった。

また 1 件の事例では、設置した保護材を千切り取って口に入れてしまうという異食行為が発生し、その対象者においては直ちに中止の措置を取った。（写真④, ⑤）

写真④



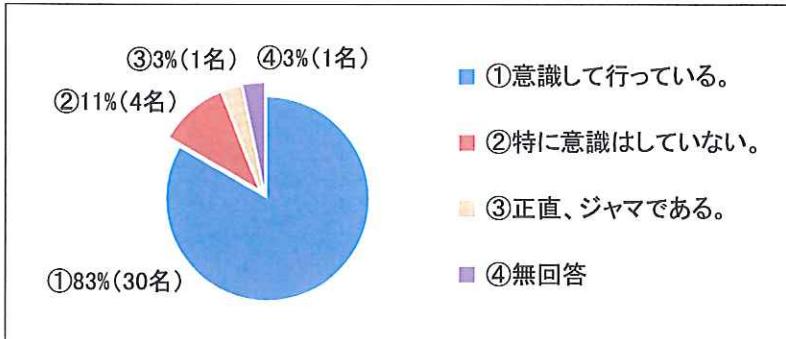
写真⑤



一方、全職員（36名）に対するアンケート調査においては、以下の通りとなつた。

- 対象者：なでしこ全職員（36名）
- 回答率：100%（36/36）

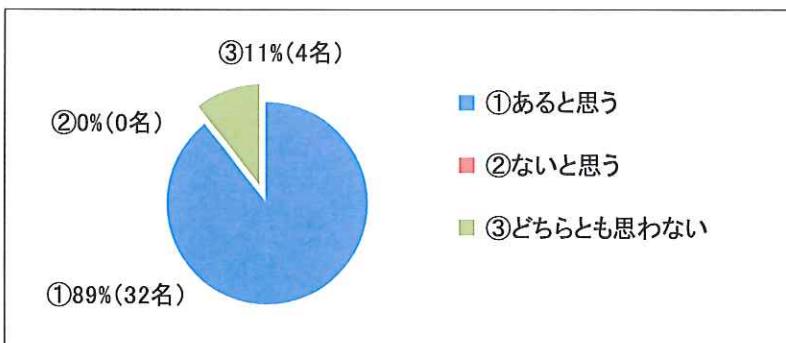
Q1：移乗介助の際、保護材を意識して介助動作を行っているか？



Q1について

83.3%のスタッフが意識して行っていると回答。「保護材の色も注意喚起に影響していると思う」という意見もあった。

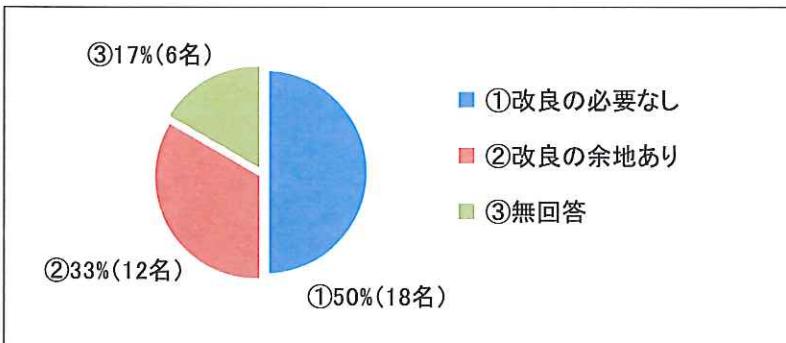
Q2：保護材の効果について？



Q2について

88.9%のスタッフが効果ありと回答。

Q3：改良するとしたら？



Q3について

50.0%のスタッフは改良の必要なしと回答するが、33.3%は改良の余地ありとし、複数名がQ4にて改良点を指摘している。

Q4：意見・感想・気付いた点など

- ・保護材と結束バンドが硬い（3名）
- ・フットプレートを上げた時に間口が狭い（3名）
(フットプレートの角があたることあり)
- ・取外しが簡単に出来る物がよい（2名）
- ・最初はしっかりと固定されているが、使用しているうちに外れ易くなつた（2名） 等

V. 考 察

一般的に高齢者の皮膚は乾燥して、外部の刺激を受け易く、弾力性が低下し、軽微な外力によって容易に剥離してしまうという特徴があるが、保護材の使用によって実施期間中の対象者においては、表皮剥離や打撲痕等のヒヤリハット報告はなかった。

これは保護材の使用により仮に移乗時に車椅子に接触した場合でも、スポンジ素材が持つ緩衝作用により、接触時の衝撃が吸収されたという直接的な効果と事前の車椅子のセッティングやベッド周囲の環境設定が介助者の注意喚起につながり、事故防止への意識が働いたことによる相乗的な効果が得られた結果であると解する。竹田は「利用者の身体状況に合わせた介助をすることはもちろんですが、的確な位置、角度、距離に車椅子を置くなど事前の環境設定をしっかり行う事が大切」と述べている。(引用文献1より引用)

これまでの方法ではそれが常態化すると注意喚起としての機能を果たさないものとなっていたが、保護材を使用した場合は、移乗動作に入る際に否が応でも保護材が直接視野に入って来ることで動作前の意識付けになり、注意喚起としての役割を果たし、無意識のうちに勢いや作業的な流れに任せた介助から、安全や事故防止を意識した介助へつながり有効であったと考える。

しかし、実際に発生した異食行為については、対象者が認知症で車椅子に座った際に少し手を伸ばせば届く位置に保護材があり、千切り取ることが容易な状態になっていたため、結果として保護材を使用したことにより、異食行為を誘発してしまうという想定外の事態となってしまい、改めて認知症患者への対応の難しさとリスク管理の必要性を再認識させられ、一段の改良と管理方法についての検討が必要であることも分かった。

VI. 結 論

保護材の使用によって導き出された結論は、以下の通りとなった。

- (1) 表皮剥離や打撲痕の発生を抑制する上で有効的な方法である。
- (2) 移乗介助時等の場面での意識的な注意喚起につなげることができる。
- (3) 認知症の方の場合、設置箇所や保管・管理方法に留意する。

VII. 終わりに

今回の研究を基に、保護材を使用していない利用者の打撲痕を含め、施設全体として表皮剥離・打撲痕発生ゼロを目指して取り組んで行きたい。

以上

[引用文献] 1 竹田幸司, 実践から学ぶ!介護技術, ふれあいケア, 第15巻第12号, P38, 2009

[参考文献] 1 小林美雪他, 病院・介護施設におけるKYT活動の進め方, 第17巻第6号, P19, 2010

2 浅井俊弥他, 皮膚のトラブルとスキンケア, ふれあいケア, 第14巻第11号, P9, 2008
3 社)シルバーサービス振興会, 事故防止・事故対応の手引, 株法研, 2004

秋葉の郷

ご利用者様の人間としての誇り尊厳を
大切にしたケアを心がけています。



所 在 地：新潟市秋葉区大関 242 番地 1

開設年月日：平成 20 年 3 月 1 日

入 所 定 員：80 名

通 所 定 員：20 名

併 設 施 設：幸人会記念クリニック

おり、統一したケアができるようになっていることから、一日も早い自立した生活を営むことができるよう支援する施設です。

また、通所リハビリテーション（デイケア）を併設しており、専門スタッフが真心をこめてケアさせていただいております。

レクリエーションとして行う音楽療法（カラオケ等）や生きがい療法（ゲーム等）は、ご利用者様からは大変好評をいただいております。

介護老人保健施設「秋葉の郷」は、2008 年（H20）3 月に開設しました。位置する所は、新潟市秋葉区と五泉市との境に面しており、五頭山を望む環境にあることから、景観眺望に恵まれております。

当施設は、三階建てのホテルのような造りになっており、一階のエントランスホール、二階及び三階のホール（食堂）は、広くて明るい空間があり、ご利用者様にとっては快適でゆったりした時間を過ごされるには絶好の環境にあります。

各フロアの居室は、個室が 4 室と 4 人部屋 9 室からなっており、二階と三階を合わせて 80 人のご利用が可能となっております。

当施設では、常勤医師、看護師、介護福祉士、理学療法士及び言語聴覚士などの職員が相互に情報を共有して

あらまち

自分らしさを大切に
役割と楽しみを持ちながら過ごせる施設



所 在 地：長岡市泉 1-7-24

開設年月日：平成 24 年 4 月 1 日

入 所 定 員：29 名

併 設 施 設：生協かんだ診療所

診療所併設型のユニット型老健として平成 24 年 4 月 1 日にオープンしました。

平屋建ての建物で全室個室となっています。10 名程度のグループに分かれています。3 つのユニットから構成されています。緑と清潔感のある施設です。

市内中心部に位置し、交通のアクセスがよく、近隣にはスーパー・学校・美容院・総合病院・飲食店などの各種施設があります。生活感にも溢れ、ご家族や職員とともに気軽に外出できる環境にあるのも特徴です。

個々に合わせた目標設定しリハビリを行うことで、「体の機能の回復」だけでなく「生活状況（日常生活動作や買い物や掃除など、また施設外の方との交流など）の維持、回復」に目を向け支援しております。

老健は「中間施設」と言われているように、ご自宅での生活を支援していくための施設ですが、さまざまな社会状況から施設の果たすべきニーズは多様化しています。状況に合わせ柔軟性のある対応をしていけたらと考えています。

日輪館



所 在 地：新発田市虎丸 452 番地
開設年月日：平成 26 年 4 月 1 日
入所定員：68 名
併設施設：二王子温泉病院

「心とからだのリハビリテーション」 を目指して

「介護老人保健施設 日輪館」は靈峰二王子岳の風光明媚な山裾に位置し、天然温泉を利用できる環境を有しています。

併設の二王子温泉病院とともに、「温泉・リハビリ in 大自然」のキャッチフレーズのもと、「心とからだのリハビリテーション」を目指して自立した日常生活を可能とし、病気の治療から日常生活への復帰、そして自宅での療養まで健康回復・機能回復のプロセスを一貫して支援する施設です。

また、温泉利用で明るく家庭的な雰囲気を醸しだし、地域と家庭との結び付きを重視した運営を行っております。

入所定員は 68 人で、夜間は看護職員 1 名を含む常時 3 名の看護・介護体制を実施しており、また、介護職員のうち 60% 以上を介護福祉士が占めています。

療養室は、個室 11 室、3 人室 3 室、4 人室 12 室で構成されています。



平成25年度 事務長会議報告

平成 25 年度事務長会議が平成 26 年 2 月 21 日木テルイタリア軒にて開催されました。当日は 85 施設 99 名が出席されました。

冒頭、松田由紀夫副会長より挨拶がありました。

次に、新潟県福祉保健部高齢福祉保健課施設福祉係主任より「介護老人保健施設の人員基準」について、新潟県福祉保健部国保・福祉指導課介護指導班主査より「平成 25 年度実地指導の指摘事項」について、それぞれ説明していただきました。

さらに、公益社団法人全国老人保健施設協会常務理事の折茂賢一郎先生より「これからのお健施設について」と題してご講義いただきました。



平成25年度 支部総会・臨時総会開催

平成25年度全国老人保健施設協会新潟県支部総会並びに平成25年度新潟県介護老人保健施設協会臨時総会が平成26年3月20日ホテルイタリア軒にて開催されました。

- ◎平成25年 公益社団法人全国老人保健施設協会
新潟県支部総会
- 第1号議案 全国老人保健施設協会 代議員等改選について
- 第2号議案 全国老人保健施設協会 支部長改選について
- 第3号議案 その他 全国大会について

それぞれ提案された各議案は、原案のとおり議決されました。

- ◎平成25年度 新潟県介護老人保健施設協会 臨時総会
- 第1号議案 新潟県介護老人保健施設協会 役員任期について
- 第2号議案 平成26年度事業計画・平成26年度予算(案)について

事務局からの説明後、議長より参加者へ採択の拍手を求めたところ、拍手多数により原案のとおり議決されました。



[全国老人保健施設協会新潟県支部]

支 部 長	馬 場 肝 作
代 議 員	馬 場 肝 作
代 議 員	松 田 ひろし
代 議 員	石 田 央
予 備 代 議 員	野 村 積 一
予 備 代 議 員	松 田 由 紀 夫
予 備 代 議 員	土 田 獻

平成26年度 通常総会開催

平成26年度通常総会が平成26年5月16日ホテルイタリア軒にて開催されました。冒頭、馬場会長より挨拶があり、事務局より総会時の会員数98名のうち17名が出席（他に代理出席9名）、委任状提出会員72名で計89名との報告があり、定足数を満たしたことから本総会が成立しました。

その後、議長として、いいでの里の姉崎先生、議事録署名委員として、きたはらの大森先生と千歳園の小柳先生がそれぞれ選任され、姉崎議長より挨拶があり、議事に入りました。

- 第1号議案 平成25年度事業報告・収支決算について

事務局より説明の後、審議を経て、第1号議案は原案通り議決されました。

総会終了後には、平成25年度新潟県介護老人保健施設大会の優秀演題（7題）の表彰式と平成25年度介護米百俵賞の授与式が行われました。

なお、平成25年度介護米百俵賞には、介護老人保健施設なでしこの「車椅子・ベッド周囲の安全に対する工夫」が選ばれました。その内容は本誌7頁以降で確認できますので、ぜひご一読ください。



ホームページのリニューアルについて

今まで運用してきた当協会のホームページに対しての「デザインが古い」「市町村合併などで行政区画が変更したのに、掲載内容が修正されていない」といった声を受けて、ホームページのリニューアルが6月末に完了しました。

メニューをはじめ、ホームページの枠組み（フレーム）に大きな変更点はありませんが、トップページのデザインを一新するとともに、県内施設一覧（施設紹介）の掲載情報を、最新の内容に更新しました。

また、「研修会などの参加申込」について、今までと同様にホームページからの申込が可能となっていますので、ぜひご利用ください。

今後は、今年度の事業計画にもあるとおり「協会ホームページの内容を充実し実施する」ため、広報委員会において、検討・審議をさらに進めていく予定です。

なお、県内施設一覧（施設紹介）のページについて、掲載内容の更新はいつでも対応しますので、ホームページに関する意見や要望も含めて、お気軽に事務局へお問い合わせください。

リニューアルしたホームページ

The website has been updated to reflect the latest administrative divisions and facility information. The design is modernized with a clean layout and updated graphics.

～トップページ～

老健協会や老健施設などの落ち着いた雰囲気を「花」の画像で表現。

新潟県の老健協会だと一目でわかるよう、朱鷺や稻穂の画像を挿入し、新潟県の県章の色でもある青の色調で統一しました。

～県内施設一覧（施設紹介）～

平成の大合併などの行政区画の変更に伴う修正とともに、会員各位にご協力いただき、施設画像と紹介文を最新の内容に更新しました。

平成26年度 事業計画

会議

- (1) 通常総会 会則第11条の規定に基づき年1回開催する。
- (2) 役員会 必要に応じて開催する。

委員会

【事務長会委員会】実務的な問題事項を検討し、事務長会議及び介護報酬改定の説明会を開催する。

【学術研修委員会】年1回程度必要に応じ開催し、研修会等の実施について具体的な事項を検討する。

【広報委員会】年6回程度必要に応じ開催し、機関誌の編集・立案・発行及び協会ホームページの内容を充実し実施する。

【トラブル防止検討委員会】事故・トラブルの未然防止を主目的とした研究をする。

新潟県介護老人保健施設大会

平成26年度新潟県介護老人保健施設大会を開催する。

発表演題は各施設1題以上とし、参加者数は制限せず多数の参加希望者を募る。

【開催日】平成26年11月21日（金）

【会場】新潟ユニゾンプラザ

【その他】研修事業の6の公開セミナーと同日開催とする。

施設運営アンケート調査の実施

必要に応じて実施する。

研修事業

1 「高齢者のリハビリテーション研修会」

期日：平成26年8月29日（金）午前10時～

場所：新潟ユニゾンプラザ 4階 大会議室

講師：（午前の部）群馬大学大学院保健学研究科 教授 山口 晴保 様

（午後の部）新潟医療福祉大学健康科学部 講師 佐近 慎平 様

目的：認知症へのアプローチと高齢者のリハビリテーションについて学ぶ

2 「接遇研修会」

期日：平成26年9月11日（木）午後1時30分～

場所：HARD OFF ECOスタジアム 会議室3・会議室4

講師：有限会社オーエスエー 代表 釋 左枝 様

目的：今までの対応を振り返るとともによりよい接遇を学ぶ

3 「現場すぐできる実践講座」

期 日：平成 26 年 9 月 19 日（金）午前 10 時～
場 所：アトリウム長岡 2 階 白鳳の間・天平の間
講 師：株式会社インテリスク総研 斎藤 顯是 様
目 的：モチベーションの向上・人間関係の科学について学ぶ

4 「現場すぐできる実践講座」

期 日：平成 26 年 10 月 9 日（木）午前 10 時～
場 所：新潟ユニゾンプラザ 4 階 大会議室
講 師：ウイングシード株式会社 代表取締役 平井 妙子 様
目 的：メンタルヘルスケア～ストレスの気づきと対処法を学ぶ～

5 「ひやりはっと事故防止対応研修会」

期 日：平成 26 年 10 月 28 日（火）午前 10 時～
場 所：アトリウム長岡 2 階 白鳳の間・天平の間
講 師：（午前の部）三井住友海上火災保険株式会社 大石 将史 様
（午後の部）文京学院大学保健医療技術学部 教授 大橋 幸子 様
目 的：介護施設における事故等の事例紹介とともに、それらへの対応を学ぶ

6 公開セミナー（県大会と同時開催）

期 日：平成 26 年 11 月 21 日（金）
場 所：新潟ユニゾンプラザ
講 師：一般社団法人なごみの里 代表理事 柴田 久美子 様
標 題：看取りのかかわりがおしえてくれるもの～看取り学への道～

7 「褥瘡・拘縮対策研修会」

期 日：平成 26 年 12 月 10 日（水）午前 10 時～
場 所：新潟ユニゾンプラザ 4 階 大研修室
講 師：生き活きサポートセンターうえるば高知 代表 下元 佳子 様
目 的：褥瘡・拘縮予防のための動作介助とポジショニングを学ぶ

機関誌の発行

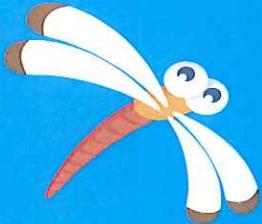
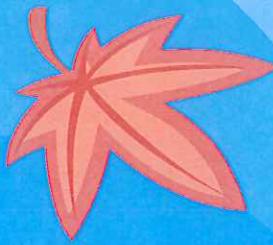
機関誌「老健にいがた」第 36 号・第 37 号の発行

平成26年度「新潟県介護老人保健施設大会」 開催のお知らせ

開催日時 平成 26 年 11 月 21 日（金）午前 10 時より
会 場 新潟ユニゾンプラザ（新潟市中央区上所 2-2-2）
参加受付 平成 26 年 9 月より参加受付開始（予定）

公開セミナー
同 時 開 催

老健とわたし



様々な職種の職員の方が、それぞれの専門性を活かしながら施設を支えています。その職員の方の声と人柄をお届けします。

いいでの里 医師 姉崎 静記

- ① 新発田市
- ② 8年目
- ③ インフルエンザ等の感染症が施設に持ち込まれた時の対策、処置
- ④ 五十公野山のふもとに在り、すぐそばには加治川が流れており、東の空には飯豊山がそびえています。正に山紫水明の場所であり、こんなに環境の良い場所にある施設はめったに有りません。
- ⑤ 当施設は精神科病院の併設であり、廊下で連結されています。このために、施設の入所者に治療を要する心身の疾患が発生した時には、24時間・365日、何時でも確実に、医師から適切に対応して貰えます。



こばり園 支援相談員 川島 義弘

- ① 新潟市
- ② 5年目
- ③ ご利用者様に笑顔になって頂いた時、やりがいを感じられます。
- ④ ご自宅で食べれるような家庭的においしい食事が魅力です。
- ⑤ 当施設の歴史は長く、職員もベテランから若手まで、バランスよく配置されています。併設病院である新潟医療センターとの連携も密にとっており、利用者様に安心して過ごして頂けるよう心掛けています。

さつき荘 支援相談員 中村 純子

- ① 柏崎市
- ② 6年目
- ③ ご利用者様やご家族様の笑顔を目にして
- ④ 四季折々の季節を感じられる、自然に囲まれた施設です。
- ⑤ 色々な方と関わりを持たせて頂き勉強の毎日ですが、少しでも皆様が笑顔で過ごして頂けるように頑張っていきたいと思います。



質問内容

- ① 施設所在地
- ② この職種についての年数
- ③ この仕事のやりがいを感じる時
- ④ 施設のプチ自慢
- ⑤ メッセージ



サンプラザ長岡 理学療法士 阿部 美有起

- ① 長岡市
- ② 8年目
- ③ 利用者様と喜びを共有できる時
- ④ 日本三大花火である長岡花火が施設から見えること
- ⑤ リハビリをしていく中でいつも多くの方の笑顔に元気をいただいています。これからも利用者の皆さんのが生活が、より良いものとなるようサポートできるように頑張っていきたいと思います。

常盤園 介護福祉士 矢部 朝美

- ① 新潟市
- ② 9年目
- ③ 利用者様が「ありがとう」と言って下さる時にやりがいを感じます。
- ④ 利用者様が明るく、お元気な方が多いので職員の私たちも毎日楽しくお仕事させていただいている。
- ⑤ 利用者様と一緒に嬉しいや楽しいと感じ、笑顔になれるこの仕事が大好きです。まだ未熟な私ですが笑顔を忘れず介護士として、人として日々成長していきたいと思います。



三面の里 介護福祉士 菅原 綾乃

- ① 村上市
- ② 3年目
- ③ 利用者様の笑顔を見たとき
- ④ どこの施設にも負けない職員のチームワーク
- ⑤ 笑顔の素敵な利用者様といつも明るい職員にたくさんのこと学ばせてもらい、介護の現場でしかできない経験を積んでいきたいです。



ひなこの広場

いいでの里

ご利用者様に折り紙を用紙に貼っていました。それを切り絵の裏から貼りました。

地元新発田に縁のある絵を使いました。



こばり園

当施設に通われている利用者様が作成したはり絵です。

本人は手のリハビリも兼ねて楽しく作成していると話されています。

とても細かく品のある作品に仕上がっています。



さつき荘

通所リハ利用者様が協力して作成しました。

柏崎市老人クラブ主催のシニア作品展・じまん展に出品し表彰された自慢の一品です。



サンプラザ長岡

百四歳の利用者様が書かれた作品です。

習字や絵はお手の物！いつも一生懸命で、手を抜くことはありません。

「手が痛くて…」と言いながらも、毎回素晴らしい作品を作ってくださいます。
次回作も楽しみにしています。



常盤園

利用者様と職員と一緒に作った「あじさい」です。花びらを笑顔で楽しそうに、一枚一枚貼って下さいました。

大きさも形も色も全部ちがう素敵なかわいらしい「あじさい」が出来ました。



編集後記

皆様のご協力を得て「老健にいがた」第36号を発行することが出来たことを、紙面を借りて御礼申し上げます。

今回、腰痛対策の特集を組みました。現場では避けて通れない問題です。是非参考にしていただければと思います。

また、協会ホームページがリニューアルされていますので、今までとの違いを皆様の目で確認していただければ幸いです。

これからも皆様の役に立つ情報を届けるべく広報委員一同頑張ります。
(広報委員一同)

三面の里

松ぼっくりを使ったクリスマスツリーとペットボトルのキャップを利用した帽子は、細かい作業でしたが、個性のあるものが出来上りました。作る喜びと、皆様に見て頂く喜びを味わって頂きたいと思い毎年作品展を開催しています。



新潟県介護老人保健施設協会広報誌 「老健にいがた」第36号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会
広報委員会
〒959-2805 新潟県胎内市下館字大開1522
介護老人保健施設やまぼうし内
TEL (0254) 47-3303
FAX (0254) 47-3370
URL <http://niigata-rouken.org/>

印刷 野崎印刷株式会社